

平成 17 年 10 月の解説（週間天気予報）

【10月の天候状況】

上旬は低気圧や前線の影響で全国的に雨や曇りの日が多くなりました。中旬は本州の南岸に停滞した前線の影響により太平洋沿岸では曇りや雨の日が多くなりましたが、そのほかの地方では高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。下旬は、初め北日本を低気圧が通過して北日本、東日本で雨や曇りとなりましたが、その後は全国的に晴れや曇りの日が多くなりました。

月を通しての日照時間は、北日本の日本海側では平年より多くなりましたが、そのほかの地方では平年より少なく東北地方南部や関東地方北部では多くの観測地点で平年の 80%を下回りました。降水量は平年より少ない地方が多く、北海道地方の太平洋側や九州北部地方では平年の 40%を下回った観測地点もありました。一方、東北、北陸、関東、近畿地方では、平年の 120%を上回った観測地点もありました。月平均気温は全国的に平年より高く、北日本、東日本では、平年より 2℃以上高い観測地点がありました。

【10月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は全国平均では例年（注）より 1 ポイント高い 71%でした。東海、近畿、四国地方では 5 から 7 ポイント低くなりましたが、東北地方では 4 ポイント、北海道地方では 12 ポイントそれぞれ高くなりました。最高気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より 0.3℃小さい 2.0℃で、ほとんどの地方で例年より小さく、特に関東甲信、北陸地方では 0.5℃小さくなりました。最低気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より 0.2℃大きい 2.3℃で、ほとんどの地方で例年より大きく、特に東北、九州南部地方では 0.4℃大きくなりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【10月の週間天気予報から】

10 月 27 日は関東地方南部の広い範囲で雨が降りました（図 1）。22 日に発表した 27 日（5 日後）の週間天気予報では、関東の南東の海上に気圧の低い部分があり（図 2）、海上では雨雲が発生すると予想しましたが、低気圧になるまで発達することはなく、雨

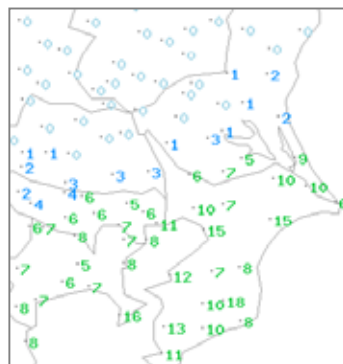


図 1 2005 年 10 月 27 日の
日降水量(mm)

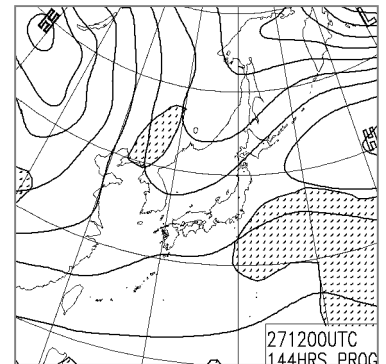


図 2 2005 年 10 月 22 日に
使用した 27 日 21 時の予想図

雲も関東の陸域にまでは届かないと判断して、東京地方の27日の天気を「晴れ時々くもり」と発表しました。

実際には27日3時頃、本州の南岸で小さな低気圧が発生し、27日夜にかけてさらに発達しながら東に進んだため（図3,4）雨雲が北に広がって、東京、千葉、神奈川を中心に雨が降りました。

このような小さな低気圧の発生や発達を正確に予想することは難しいことですが、それによって天気は大きく変わりますので、天気予報の精度を上げるための重要な課題となっています。

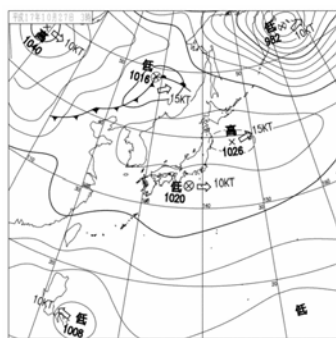


図3 2005年10月27日
03時の地上実況天気図

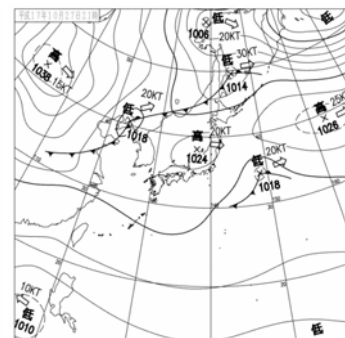


図4 2005年10月27日
21時の地上実況天気図

【12月の週間天気予報の利用にあたって】

12月は低気圧が通り過ぎるごとに北から冷たい空気が流れ込んで寒くなり、雨よりも雪が降ることが多くなり、北日本では本格的な雪の季節が始まります。

2004年の12月を例にとると、北海道では雨の日が少なく、札幌の積雪は5日に大雪が降って42cmとなった後一旦下がりましたが、中旬以降、次第に増加して下旬は40cm程度の日が続きました。一方東北や北陸地方では、中旬までは雪より雨の日が多く、秋田では下旬から積雪となり月末には23cmになりました。新潟では月末になって5cmの積雪となり、東京も月末に2cmの積雪を観測しました。

12月は北海道では本格的な雪への対策が必要な時期ですが、東北地方から南では雨が降ることも多く、天気予報では降水現象が雪となるか雨となるかが重要なポイントとなります。

降水現象が雨となるか雪となるかは、主に地上付近の気温によりますが、湿度や上空の気温などでも複雑に変わります。雨になるか雪になるかが微妙な場合には、天気予報では雪になる可能性が大きいときは「雪か雨」（天気マークは雪）、また雨になる可能性が大きいときは「雨か雪」（天気マークは雨）と発表します。雪になると交通機関などに大きな影響がありますので、「雨か雪」の予報が出ているときは、天気マークが雨となっても雪が降る可能性があることに注意して下さい。

